

課題番号2

課題名	<b>重点課題4 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興</b> ワイン用ぶどう生産量増大の取組	
対象： 管内ぶどう生産者 80名、大阪ワイナリー協会6社	計画期間：H29～33	事務所名：中部農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
ワイン用ぶどう生産量増大	①農業者とワイナリーの契約栽培推進、農業者への意向調査 ②ワイン用ぶどう担い手塾開校調整 ③大阪ワインPR支援	ワイン用ぶどう生産量8トン増(200%)

総合評価（コメント）
<p><b>A：4名 B：3名</b></p> <p>■産地の今後の維持・発展に向けて、適切な活動を展開しており、特に円滑な契約栽培システムの構築に期待したい。また、農業者と加工業者との連携による地域の活性化効果に期待したい。</p> <p>■産地が高齢化する中で遊休化を防ぐ手法としては具体性がある。遊休化の解消で大事な取組である。</p> <p>■「プロ農家」にとって時給千円は低すぎる実績である。一方、「労力不足で遊休化しそうなブドウ園の営農を継続する」ために、「ワイン用ブドウを生産する」というキーワードで、農外からの参入希望(ボランティアを含む)を募る方法は有効である。課題のとらえ方に工夫が必要と思われる。</p> <p>■六次産業化も考えながら生食ブドウとワイン用ブドウの複合経営についても支援をお願いしたい。</p> <p>■全体的なやり方は正攻法。評価できるが、他の産地がまねできない大阪ならではのことを仕掛けてもいいと考える。</p> <p>■地元の一部企業の需要だけに頼っているという現状はリスクが大きい。まず第一に全国的な国産ワインの需要とその原料ぶどうの需要をマーケティングするべきで、その上でまずは地元からというのがステップとして正しい。将来的なことも見据えての他品種の選定や栽培方法の検討も必要。</p> <p>■時間当たり千円では契約栽培は進まないと思う。ワイナリーも自家生産していれば、原価がどれだけかわかると思う。もう少し買い上げ価格を上げる努力が必要。</p>

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等
<p>■ワイン用デラウェアについては、R2年度が新たな契約ルールに基づく取組の初年度となることから、モデル農家2戸に重点的に支援を行うこととする。</p> <p>■栽培管理については府立環境農林水産総合研究所と当事務所が編集協力を行った「醸造用デラウェア栽培マニュアル」に従って行うが、収益性の向上を図るため、マニュアルの内容からさらなる低コスト・省力化を図る方向で、個別巡回指導を行う。</p> <p>■販路については大阪ワイナリー協会を窓口とする事前契約を実施し、価格決定の透明性に配慮する。</p> <p>■定年帰農者や農外からの参入希望者を対象としてワイン用デラウェアの栽培塾を開催し、自ら遊休園地でのワイン用デラウェア栽培に取り組む担い手や、農業者の作業を支援する応援団として育成を図る。</p> <p>■生食用ぶどう生産の支援としては、スマート農業技術による品質向上・収量増・省力化に取り組んでおり、生産余力を生み出すことでシャインマスカットや大阪府育成品種の導入につなげる。</p>